

「大陸ノルド語（デンマーク語、スウェーデン語、ノルウェー語）」は互いによく似通っている。このうちノルウェー語はこれら3言語の中間に位置し、最初にノルウェー語を学ぶと他の2言語を効率よく学ぶことができると言われている。しかし馬齢を重ね、ますます疑い深くなったせいか、最近この表現は正しくないと感じている。というのも、この3言語、学べば学ぶほどまったく異なる独自の言語に思えてくるからである。さらに「離島ノルド語（フェーロー語、アイスランド語）」を含めた北ゲルマン語全体について言うなら、フェーロー語が様々な観点から中心に位置すると考えられているようである。フェーロー語を学ぶと他の4言語が学びやすくなる、と言っていないところがミソである。

西ノルウェーのフィヨルド地域から大西洋に出たバイキングは新天地を求めて西に向い、アイスランドに到達した。9世紀末のことである。アイスランドに向かう途上にあり、主として西ノルウェー出身の人びとにより植民されたフェーロー諸島（Føroyar「羊の島」）で話されているのがフェーロー語（føroyskt）である。ノルウェー語と同様、19世紀半ばまで書き言葉を持たなかったばかりでなく、一時は絶滅の危機に瀕していた。ノルウェーにおける書き言葉確立の動きに刺激され、ハンマーシュハイム（V.U. Hammershaimb, 1819-1907）は古ノルド語を基盤とした正書法を考案し、若干の修正



フェーローの港に集うカモメ達

を経て今日に至っている。今世紀に入り、辞書、文法書、外国人向け学習書が続々と出版されている。

フェーロー語が絶滅の危機を脱したのに対し、絶滅してしまった西ノルド語がノーン語（Norn）である。アイスランドやフェーロー諸島同様、西ノルウェー系のバイキングにより植民されたシェトランド諸島やオークニー諸島において19世紀初頭まで話されていた言語である。フェーロー語は奇特定の人物の努力によって救われたが、ノーン語も一部の殊勝な人々により再建されようとしているようである（<http://nornlanguage.x10.mx/>）。

シングルモルト・ウイスキーに「スキャパ（Scapa）」がある。オークニー諸島（the Orkney Islands）の蒸留所で作られている。島の名称は「アザラシの島」とか「鯨の島」という意味らしい。筆者が長年付き合ってきた西ノルド語文化圏は鯨に縁があるので、とりあえず、昔懐かしい“鯨のベーコン”をつまみに「スキャパ」を味わいながら、ノーン語再建に声援を送ることにしよう。

表紙写真
について

バングラデシュに小学校！？

室井美稚子 Muroi Michiko（清泉女学院大学）

この見慣れない建物は、バングラデシュの首都ダッカの北西部にあるヒンズー寺院です。このラジャヒ管区のプティア村にはいくつもの美しい寺院が建ち並び、バスに揺られてはるばるやって来た値打ちがありました。特にこの小ゴビンダ寺院を見たとき、同行した学生たちは「かわいー」の連発でした。雨上がりでもあり、テラコッタで飾られた外壁は緑に映え、荘厳さを増していました。

バングラデシュの宗教は、イスラム教が90%で、残りの9%はインドと境を接していることもあってヒ

ンズー教で、その古い時代の遺跡も多くあります。ホテルの天井には小さな矢印があり、イスラム教の聖地であるメッカの方向を指すことを知ると学生たちは感心していました。私たちが滞在していたのは1週間足らずでしたが、お祈りの時間を知らせるアザーンを1日に5回近く耳にしていると、この地の人々の暮らしにイスラム教が根付いていることを肌で感じてきたのでしょうか。日常的な宗教から遠い日本人にとっては貴重な経験でした。

この国は、世界最貧国の1つと

言われていましたが、近年はBRICsに次ぐNext Elevenとまで呼ばれる経済発展ぶりです。それでも小学校に通うことができない子どもたちがふつうに存在します。そんな田舎の村に小さな小学校を建てるプロジェクトのお手伝いで、学生たちは入学希望の子どもと親御さんたちにインタビューをしました。将来は学校の先生やお医者さんとか警察官になりたいという子どもたちの夢を聞いて、学生たちは感じ入り、涙して熱く語っていました。その姿にこちらも疲れが吹き飛びました。

